



めとてラボ 2023

- 活動レポート -



めとてラボは
誰もが「わたし」を起点にはじめる思考と実験の場。

さまざまな身体感覚や思考を持つ人と人が出会い、
「め」と「て」でつたえあうなかで生まれた言語やからだの使い方、

生活のなかにある歴史や文化を再発見しながら、
新たな関わりや創発の可能性を耕す

「ホーム（文化の創造拠点）」をつくるラボです。

わたしを起点に、新たな関わり回路と表現を生み出す



視覚言語の歴史を見つける・紡ぐ。

同じ景色を見ながら、個人史を語ろう

うまれることば、消えることば

12月16日 5005

ホームビデオ観賞会 vol.2

“那須さん家のホームビデオ”鑑賞会

那須さん家の母と息子がゲスト。幼少期に、子どものなかで自然に言語が生まれ、それが成長とともにどのように変化していったのか、親子それぞれの視点から手話や表現について考えた。

歴史をさがす

目には見えない文化、
暮らしのなかの工夫をみつける

ホームビデオ観賞会

暮らしのなかにある手話の記憶・記録をアーカイブするコミュニティ・アーカイブプロジェクト。主に家庭で保管されていたホームビデオの鑑賞会やその収集を通して、ろう者の生活文化や歴史をどのように継承し、保存していくのか、その仕組みづくりを目指しています。

9月2日 世田谷文化生活情報センター 生活工房

ホームビデオ観賞会 vol.1

“井岡さん家のホームビデオ”鑑賞会

ゲストに井岡さん家の姉弟を迎え、幼い頃や家族との思い出などを懐かしい映像を鑑賞しながら語ることで、暮らしのなかの手話での対話の様子や生活文化を発見していく時間になった。



「5005」がめとてラボの活動拠点に！

手話 × 出会いの文化センター

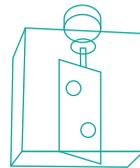
DeafSpace (デフスペース) リサーチ

手話という言語からなる身体感覚をもとに、ろう者が過ごしやすい環境が設計された空間「DeafSpace (デフスペース)」について、専門家とともに学びながら考えていくプロジェクト。2023年度は、専門家による勉強会やワークショップを実施し、そこで議論したアイデアが、実際に手話 × 出会いの文化センター「5005 (ごーまるまるごー)」の環境設計につながっていました。

5005・オープン！

ワークスペース、舞台、上映会とさまざまな用途にも使え、デフスペースの工夫がたくさん詰め込まれた手話 × 出会いの文化センター「5005」が開設。めとてラボの活動拠点として活用がスタート。

※5005は、一般社団法人日本ろう芸術協会と一般社団法人oooが共同運営している。
<https://5005place.com/>



5月 場と出会う

知人の紹介で、西日暮里にある路面の貸店舗物件と出会う。ちょうどその隣には、ろう者の店主が営む麺屋「義」があり、さまざまな人の交流が生まれそうな予感がした。

9月23日 DeafSpace オンライントークイベント 「DeafSpace から考える、これからの私たちのための場づくり」

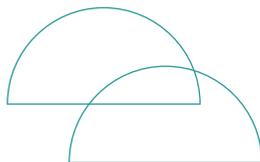
場づくりをテーマに、勉強会やワークショップを開催し「デフスペース」への学びを深めた。

8月9日 DeafSpace Workshop



つたえかたを発明するワークショップ

視覚的な創造・想像力を広げて遊ぶ



12月2-3日、24-26日

みんなのSORAIワークショップ

イメージをつたえてあそぶコミュニケーションゲームキット「SHAPE IT!」をつかって山形にて出張ワークショップ。この形、あの形、それぞれどう表したらいいんだろう、とみんなで工夫しながら伝えあう。

※めとてラボの活動から派生した、他地域への協働・出張企画として実施

11月20日 視覚言語勉強会

イメージをつたえるためにはどんな方法があるのか、改めて講師を招いて手話表現やコミュニケーションの勉強会を実施。

「遊び」を起点にしたラボラトリー

「め」と「て」から自然にうまれた遊びを集めたり、遊びがうまれる仕組みや場をつくるプロジェクト。からだを通して言語で遊び、新しいルールや仕組みをつくりながら、めとての「アンビバ」をつくります。

遊びをみつめる

自然な文化を耕すことについてめとてラボメンバーで話し合う。「遊び」が起点になるのではと、メンバー自身の小さい頃の遊びを収集する。

6月25日 ファンファンの拠点「藝とスタジオ」で一緒に企画に取り組む

「ファンタジア！ファンタジア！一生き方がかたちになったまちー」のオープンスタジオの企画にめとてラボがゲスト参加。視覚言語の遊びを通して、つたえ方、コミュニケーションの在り方をともに考えた。



わからないに会う。

12月17日 手話通訳コーディネーター 勉強会の実施

Artpoint Meeting #14「わたしたちの“拠点”をつくる」にめとてラボの手話通訳コーディネーターが参加。2023年度のArtpoint Meetingでは手話通訳コーディネーター（CODA）とろう者のアドバイザーの2名体制で事前の準備から本番の立会い、本番後の振り返りとフィードバックが行われている。その一連の流れを学び、コーディネート業務への理解を深めた。

つなぐラボ

感覚の異なる他者との出会い方やつたえあいの工夫について考えていくラボラトリー。目の前の誰かの頭のなかをのぞいて見るができないように、つたえあうことには、常に「わからなさ」が横たわっています。視覚と聴覚、感覚が異なる言語の間で、コミュニケーションの在り方やその環境設計を探索しています。

8月「だれもが文化でつながるサマーセッション2023」に参加

アーティストのジョイス・ラムの作品を題材に、芸術作品をつたえるための情報保障について考える公開研究ラボを実施。わからなさや曖昧さそのものをどのように翻訳することが可能なのか。新しい情報保障の在り方を考える機会になった。

つたえるとは？

手話通訳チームとつたえることや翻訳することについて考える。より良い通訳環境やそのための仕組みを学び・考える。

手話通訳運営マニュアルを作成

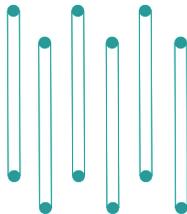
手話通訳への依頼と準備のフローを見える化することで円滑な運営ができるようマニュアルを作成した。また、通訳者の負担軽減のために頻出単語の手話表現リストも作成・更新中。誰にとってもより良い通訳環境になるよう工夫・改善を続けている。





めとてラボ 2023 活動レポート

企画制作：めとてラボ
執筆・編集：和田夏実、嘉原妙
デザイン：和田夏実



発行日：令和 6 年 (2024) 年 3 月 2 1 日
発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
東京都千代田区九段北 4 丁目 1-28 九段ファーストプレイス 5 階
TEL：03-6256-8435 FAX：03-6256-8829
<https://www.artscouncil-tokyo.jp>

印刷・製本：株式会社ショウエイ

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人 ooo

ISBN：978-4-909894-54-0 C0070

「めとてラボ」は、2022 年 4 月より東京アートポイント計画の事業として実施しています。視覚言語（日本手話）で話そう者・難聴者・CODA（ろう者の親を持つ聴者）が主体となり、一人ひとりの感覚や言語を起点とした創発の場（ホーム）をつくることを目指したアートプロジェクトです。

東京アートポイント計画とは

社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すためのさまざまな「アートポイント」をつくるために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、地域社会を担う NPO とともに展開している事業です。実験的なアートプロジェクトをとおして、個人が豊かに生きていくための関係づくりや創造的な活動が生まれる仕組みづくりに取り組んでいます。

<https://tarl.jp/about/tokyoartpoint>

ARTS COUNCIL TOKYO

